歴史の重み、ひしひしと…

創立80周年を有意義に祝う

昨年、創立八十周年を迎えた恵那高では、十一月十日に『記念式典』と『祝賀会』などを行ないました。式典は恵那文化センター大ホールと本校第一体育館とをテレビ会議システムでつなぎ、両会場に来賓、職員、同窓会員、在校生ら合計千二百三十人が参列。

校旗入場、国歌斉唱に引き続き、柘植章実行委員長の式辞、齊藤宣昭校長と加藤智子岐阜県教育委員長のあいさつがあり、実行委員長から歴代の校長、同窓会長、PTA会長らに感謝状を贈り、来賓祝辞、岩崎美幸生徒会長の言葉、校歌斉唱と厳粛裏に進みました。

続く記念講演は、同窓会員の末松安晴国立情報学研究所長［中24］と鈴木正昭岐阜大学大学院教授［高18］が講師。その後、ニュースキャスターの草野満代さん［高37］が司会を務めてトークショー。楽しくて有意義なうちに終了しました。

午後は会場を恵那峡グランドホテルに移して祝賀会。卒業期ごとに校章旗（回旗）が交付された後、祝宴に移り、高校第10回生のストーム実演で参列者は興奮に酔いしれ、八十年の歴史の重みをひしひしと感じた一日でした。

［写真・上］創立八十周年記念式典風景（恵那文化センター大ホールで）

城陵

－ 第4号 －

発行／岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地／岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL・FAX：0573-25-0253
E-mail：enako-ds@enat.org
発行責任者　柘植　章

末松博士の祝賀会計画

末松安晴さん［中24］の文化功労者顕彰を祝して、恵那高同窓会では『祝賀会』の開催を計画し、ただ今、末松さんと日時の調整を進めております。

例年、二月十一日に『恵那城陵会同窓会（総会）』を開催していることから、この日の開催が濃厚です。決定次第、同窓会ホームページ（Eメールは題字の下）や日刊紙の催し物案内などで連絡しますので、奮ってご参加ください。

末松安晴さん文化功労者に

政府は十一月四日、平成十五年度の文化功労者として同窓会員の末松安晴さんをはじめ十五人の方々を顕彰しました。

ご存じのように末松さんは、光ファイバー通信工学の世界的権威者。創立八十周年記念講演で「研究が実用化され各家庭に浸透したときが『真の技術革新』だ」と説きましたが、今や我々の毎日の生活に、光ファイバー通信が欠かせない時代となってきました。それから考えると、顕彰は遅過ぎたと言えるほどです。

同窓会員一同、末松さんのますますのご活躍をお祈りしたいものです。

［写真・上］文化功労者に選ばれて喜びの末松さん。（国立情報学研究所で、写真提供・高知新聞社）

偉大な先輩の足跡を学ぶ

特集・創立80周年の記念式典と祝賀会

創立八十周年・記念講演講師は、国立情報学研究所長・末松安晴さん［中24］と、岐阜大学大学院教授の鈴木正昭さん［高18］。

末松さんは恵那中時代の思い出話に始まり、人類最後の通信と言われる光ファイバー通信に着目した端緒、その技術を世界一に引き上げた内容などを解説。

鈴木さんはインターハイ優勝のボート部選手。ノーベル賞の野依良治教授と共同研究中の「脳内の分子化学」の話。また、日本で初めて提唱した化学、生物学、医学などを一体化した研究「生命科学研究の新方法論」などについて触れました。

記念講演で偉大な先輩の足跡を学んだ後、ニュースキャスターの草野満代さんの司会による豪華なトークショーを楽しみました。

［写真・左］式典のヒーローは第1回生で94歳の岡本丑雄さん。はるばる横浜市から駆け付け、場内の大拍手と大声援に答えた。

草野　満代さん

末松　安晴さん

鈴木　正昭さん

進行に生徒たちが大活躍

［写真・右上］第一会場の恵那文化センター大ホールには八百三十人が参列。記念式典、講演会の受付・進行・駐車場整理などに生徒たちが大活躍した。

［写真・右下］音楽部の『城陵歌』合唱の中、校旗が入場。

［写真・左上］岩崎美幸生徒会長が生徒代表の言葉。

［写真・左中］開幕前、三年生が弦楽演奏。

［写真・左下］受付は在校生が担当するのが伝統。

祝賀会　大いに盛り上がる

記念式典・記念講演終了後、会場を恵那峡グランドホテルに移して『祝賀会』。参加者は二百五十人に達し会場はあふれんばかり。まず校歌斉唱の後、柘植章同窓会長から同級会活動に使う「校章旗」（回旗）を卒業期ごとに交付。

次いで阿部龍輔前同窓会長の乾杯の音頭で宴会スタート。この後、高校第10回生グループが「ファイヤーストームの復活」を呼びかけて猛ハッスル。参会者もこれに呼応して応援歌の大合唱となり、大変な盛り上がりを見せました。

この一心同体となって目標に向かって進む姿。そこに同窓の良さがあり、恵那高の強さがあります。これがある限り「恵那高は永遠に不滅」と言えるでしょう。

［写真・左上］出席者全員で校歌を斉唱して開宴。

［写真・左］卒業期ごとのテーブルは崩れ、先輩、後輩入り交じっての懇談が始まる。

［写真・右上2枚］卒業期ごとに回旗の交付。

［写真・右中］”恵那高グッズ“も売れ行き好調。

［写真・右下］「高校第10回のストーム協賛」高校第4回デモ隊？が現われた！

［写真・左上、左中］高校第10回グループの指揮のもと全員が応援歌の大合唱。

［写真・左下］全員が肩組み合い応援歌。陶酔状態になって生徒時代に戻った。

【お知らせ】

近く発行する『写真史・城陵八十年』では、記念式典・祝賀会の模様をカラー8ページにわたって紹介します。

八十周年記念事業　ご協力に感謝

恵那高等学校同窓会長　柘植　章［高8］

昨年実施した『恵那高等学校創立八十周年記念事業』につき、この紙面をお借りしてご協力いただいた関係の皆様に、ご報告とお礼を申し上げます。

それでは、記念5事業についてご報告いたします。

①同窓会員名簿の発行＝まず、委員により住所の確認から始めましたが、大変難事業で、前回発行してからの十年間に移動が多く、郵便による確認のほか、電話により所在を確かめるなど、担当者には大変ご苦労をおかけしました。今後はメンテナンスのシステム化が必要と感じました。

②同窓会室と嘱託員の設置＝花の木会館案は、職員室から離れていて連絡や管理に問題があるということで、校舎の一室にコーナーを設け、書籍の保管や複写機の設置をするなど、会員との連絡の円滑化を図るよう改修しました。嘱託員は記念事業を進める上の臨時担当者を依頼して対応しました。常駐の嘱託員は今後更に検討をすることとしました。

③同窓会報『城陵』の発行＝は、この第4号をもって記念事業の一環としての発行は終了します。

今後は予算の関係で有料購読制とさせていただきます。編集方針を検討し、更に内容を充実していきたいと考えておりますので、どうか全会員の購読お申し込みをお願いいたします。

④記念事業募金＝別紙の会計報告でお知らせしたとおり、目標を上回るご寄付をいただきました。経済情勢が非常に厳しい折、母校に対する皆様の熱い思いが感じられ、深く感謝いたしております。

⑤メーン記念事業の記念式典＝十一月十日に多くのご来賓、学校関係者、同窓生をお迎えし、盛大に挙行することができました。受付、進行、駐車場整理などに在校生の積極的な協力があり、また、恵那文化センターの収容力の関係で恵那高第一体育館とテレビ会議システムでつないだのも、新しい試みとなりました。式典後の末松安晴先生、鈴木正昭先生、草野満代さんによる講演会は内容が素晴らしく、生徒のみならず参加の方々に深い感銘を与えていただきました。

なお、本号1ページに掲載のとおり、末松先生が文化功労者として顕彰されたことは、同窓生の誇りであり在校生にとっても励みとなるところであります。

最後になりましたが、記念事業準備の二年間、忙しい仕事の傍らご協力くださった方々に、心から感謝申し上げます。

城陵論壇

恵那高の更なる発展を願って

恵那高等学校長　齊藤　宣昭

大変遅くなりましたが、昨年十一月、創立八十周年記念式典が盛大に挙行できましたことは、同窓生の皆様方の温かいご支援とご協力の賜（たまもの）であると、心より感謝申し上げます。

閑話休題、岐阜県も少子化の波に襲われ、来年度の公立学校入学定員は、恵那・多治見学区で八十人の減となりました。今後更に生徒の減少が続くことは明白です。県教育委員会も「生徒いきいきプラン」で県下二十八校を対象に新しいタイプの学校の整備や規模の適正化を図ろうとしています。中でも十九年度までに二十二校を統合して十一校に縮小し、単位制・総合学科・中高連携型等の魅力ある学校作りを目指しています。当地区では岩村高と明智商高を統合して総合学科に、中津高と恵那北高を統合して単位制の高校とします。このプランが実施されると、本校も伝統ある進学校だからと安穏としておれなくなります。地域の中学生からみて進学したいという魅力ある学校にしなければなりません。

また、本校は耐震関係と老朽化のため、本館棟と理科棟の建て替えが決まりました。設計の段階では理科棟に物化生地の理科教室を造り、屋上に天体観測ドームの設置などを計画しています。これは本校の希望であって、県の許可が下りるかはまだ分かりません。

現在文科省のSPP事業で理数科の一年生が瑞浪市のサイエンスワールド、二年生は土岐市の核融合科学研究所の協力を得て、最先端の実験を行なっていますが、来年度はより質の高いスーパーサイエンスハイスクールを目指しています。このように本校の特色として、理数科を中心とした魅力ある進学校を目指していきたいと思っています。

また、国際交流にも目を向けて、アメリカ等の高校との姉妹校提携も考えています。外国の高校生と交流することで、国際人としての感性を磨くのも、これからの社会・若者に必要なことではないかと思います。学業においては日々の授業の工夫と部活動の振興を図り、文武両道を維持すると共に、土曜日を利用した進学補習、教養講座やサテライン充実。更に卒業生による自主勉強の相談・指導等、進学実績を向上させるためのメニューを考えていきたいと思っています。在籍中の後輩と将来本校を志望する後輩のために、よいアイディアがありましたら、是非ご教授ください。

母校のトピックス

毛根使って個人差確認
サイエンスワールドで　遺伝子実験

子供の理科離れに歯止めをかけるため文部科学省が昨年度から始めた計画に基づく、高校生対象の遺伝子実験講座を本校生徒が受けていますが、今年度も二組に分かれ、九月に学校で準備講座の後、十月下旬には瑞浪市の岐阜県先端技術体験センター（サイエンスワールド）で受講しました。

これは大学、研究機関などと学校が連携するSPP事業（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）の一つで、生命科学分野でも最先端を行く遺伝子を取り上げ、理数科生徒が大学レベルの実験を体験しました。

今回は自分の髪の毛根組織からDNAを抽出し、電気泳動で分析し、一人一人の違いをDNAレベルで確認しました。生徒たちは珍しい機械を使った面白い実験だけに熱心に取り組んでいました。

［写真］大学レベルの遺伝子実験に挑戦。

ボート伊藤来選手が大活躍
中日本で優勝、国体で準優勝

四月十九、二十の両日、愛知県愛知池ボートコースで行なわれた『中日本レガッタ』で、男子シングルスカルに出場した本校三年・伊藤来（きたら）選手（中津川市茄子川出身）が58クルーの頂点に立って堂々優勝。

夏のインターハイ（長崎）ではフォアスカル一員として4位に入賞。余勢を駆って、九月十三、十四の両日、静岡県天竜市で開かれた国民体育大会の男子シングルスカルに出場。見事、準優勝に輝きました。実は、予選では5位と苦戦したものの、敗者復活戦、準決勝と調子を上げ、決勝では予選で負けた選手を押さえて2位となったのです。

静岡国体夏季大会の少年シングルスカルで2位になった伊藤来選手

大島誠人君に県民栄誉賞

大島誠人君

一昨年七月二十三日夜、変光星「WZ」の増光現象を世界で初めて発見した当時本校二年生の大島誠人（とものひと）君［高55］＝京都大在学中＝は、昨年一月には『2001年度・シチズン・オブ・ザ・イヤー』を受賞しましたが、更に年末の十二月五日『岐阜県民栄誉賞』を梶原知事から受賞しました。

同賞は前年、成瀬智美さんが受賞したので、本校では二年連続の栄誉です。また、大島君を含め三十七の個人・団体が受賞しました。

八十年の軌跡 ④

中津商との対校陸上競技
大正末期に開催の定期戦

上の写真は「恵那中学校と中津商業学校との対校陸上競技定期戦」の試合開始前、両校主将の握手交歓風景です。左側が恵那中、右側が中津商。場所は中津町（現中津川市）で、背景に苗木の山々？らしいのが薄く写っています。恵那中の主将は第1回生で陸上競技部発足に尽力した安江視朗（旧姓・中島）さんです。

この写真が安江嘉記さん［特別会員］方にあることが分かり、借用をお願いしたところ、早速、実家で捜してくださいました。歴史に残る貴重な写真です。

撮影時期は帽章が一九二四（大正一三）年度に制定の『花の木校章』であることから、同年度から安江さん卒業の一九二六（昭和元）年度までの三年間になります。試合の結果は正確な記録がないものの、一九二五、二六の二年は恵那中の連敗だったようです。

実は「その連敗がきっかけで『大会の歌』（現在の『城陵歌』）を誕生させることになったのではないか」と私は推定しているのです。

今回はスペースが足りませんので、その話はまた別の機会に…

調査・文＝古山精［高1］

同窓会・同級会あれこれ

住所不明者を減らそう
高26回　名簿整備の同級会

高校第26回地元有志同級会＝創立八十周年記念に発行される『同窓会員名簿』の高校第26回分に「住所不明者などたくさんの穴があっては残念。情報を持ち寄り、名簿を整備するための同級会を開こう」ということになり昨年五月十一日『よしだや』に招集。急きょ、東濃地方に住む同級生だけに連絡したにもかかわらず、さすがはガッツある第26回生、42人もの参加があり、しっかり同級生の住所をチェックした後は無礼講の懇親会。誠に楽しく、極めて有意義な同級会となりました。

（蜂谷明子［高26］）

［写真・左］住所不明者をなくすため急きょ集まった高校第26回生。

水野隆夫先生をしのぶ
バスケット部のOB会

恵那高籠球部（ろうきゅうぶ）OB会＝代表・山田基さん［高4］＝まった恵那高籠球部OB会。高校第1回から9回までのバスケット部員で結成し、昭和51年発足の当会は、創部当時の顧問『水野隆夫先生を偲（しの）ぶ会』として、3月2日、24年ぶりの第5回懇親会に二十八人が集まった。正午、山岡町の先生の墓を訪ね河合哲玄師［高7］の読経でお参り。2時から『いち川』で懇親会。校歌に始まり、九人の物故会員に黙とうをささげ、今後の運営を協議して懇親会に。和やかな懇談が続き、最後は『城陵歌』を歌って幕。

（河合哲玄［高7］）

［写真・左］24年ぶりに集まった恵那高籠球部OB会。

岡本さんの墓参りの参加者一同

鎮目先生の墓参者と先生の長男・義雄さん（右から3人目）

鎮目先生、岡本先輩の墓参
東京城陵会の有志たち

東京城陵会有志八人＝代表・市岡実さん［中12］＝は、昨年5月8日、神奈川県伊勢原市三福寺にある鎮目（しずめ）義四郎先生の墓参りを行ない、先生をしのびました。

先生は『チンモク先生』の愛称で有名。昭和10年に恵那中教師となり11年間英語を担当、昭和46年、大磯高校の校長を最後に退職、昭和60年5月28日、77歳で逝去されました。

また、同会有志十人は今年6月7日、恵那中第1回生で、陸上競技部や東京恵中会の創設メンバーの岡本丑雄さんの鎌倉霊園の墓を訪ね、めい福を祈りました。

岡本さんは創立80周年記念式典の参加、同記念誌執筆の最高齢者。本年3月11日、自宅で逝去されました。ごめい福をお祈りします。

（吉村健次郎［高3］）

ミニサイズ会報 間もなく第20号

樹緑會報
03/3/3
No.15
悼む　古木一君　逝く
二〇〇二年十一月十三日

写真は中学第16回同級会の会報『樹緑会報』（常緑の松樹のイメージを重ねた）で、B6版のミニサイズ、小粒ながらもカラー刷り。年3回発行で、1回の発行部数六十部。荻山健吉さんが同級生のために五年ほど前から編集を続け、間もなく第20号を迎える。

レンタカーで氷見市へ

恵那高第18回定時制（第14回）＝田立明代表＝は、10月18、19の両日、富山市に住む同級生・宮路民子さんの紹介で、11人が氷見市の民宿・灘浦荘まで足を伸ばし、第2回同級会兼懇親旅行。足はマイクロバスを借入れ、交告兼夫さん、新田成興さんが運転してくれる便利さ。

宴会は役者ぞろいで最高の盛り上がり、日本海のおいしい魚の味を堪能し、氷見の魚市場で土産をしっかり買い入れ、富山市・海浜植物園のチョウの標本に驚嘆し、源のマスずしを満喫。すべてに満足した楽しい旅行でした。

［写真・右］高校第18回定時制の第2回同級会。

80周年協賛同級会

恵中第22回生同級会＝創立80周年に協賛し、隔年返上、恵那地区の当番で、5月19日に恵那峡グランドホテルで開き54人が集まった。

今年は西部地区の当番で5月15日、土岐市山神温泉・湯乃元館で開き53人参加した［写真・上］。

現在の同級生数は一四〇人、毎年約40パーセントが出席するのだから出席率は極めて優秀。

◆和歌山・高野山へ

恵中会・昭和20年入学者＝10月29、30日、15人が和歌山・高野山の旅を楽しんだ［写真・左上］

◆数年ぶりに蛍雪会

蛍雪会＝小池年久［高12］会長＝本校定時制夜間部の有志でつくる『蛍雪会』。数年ぶりに集まって懇親会［写真・右中］

◆健康維持のゴルフ

中学第20・21回花の木会＝和田芳行、梶屋春雄幹事＝4月17日、17人の老兵が瑞浪トーカイCCに集結し恒例のゴルフコンペを開いた。この会は還暦を機に、健康を損ねないよう18人ほどが、年2回のゴルフを楽しんでいる［写真・左中］

◆1泊2日和やかに

実女23回西組＝別名『六・七会』＝神谷美恵子幹事＝は、6月5、6日、22人が参加し、中津川市の花更紗で一泊二日の和やかなクラス会を開いた［写真・上］

◆珍しい職域同窓会

国税『恵那会』＝国税の職場には岐阜県警察と同様に珍しい職域恵那高同窓会があり、創立も同じ一九八八（昭和63）年で、現会長は遠山信弘さん［高16］、会員数は55人で優秀職員ぞろい。恵那高卒業だと採用される？ため、この巨大勢力を生んだ。

ここ数年中断中だった総会を復活し、4月26日、名古屋市に17人が集合。全員しっかり飲み、じっくり懇談した。［写真・上］

『城陵』有料制に

『城陵』第5号から有料制（年間千円）になります。同封の振り込み用紙で振り込んでください。

本会から　地区会から

会名『東京城陵会』に 70人が集まり大盛会

東京恵中・恵高会＝佐々木慎一会長［中19・4］＝では、十一月二十二日、銀座ライオン6階大ホールで七十人が出席して『第7回・東京恵中・恵高会総会』を開いた。

今回、高校第5回までの関東地区在住者約三百四十人に案内したところ、中学二十七人、高校四十三人の参加があり、和やかな歓談と共に校歌、城陵歌、『東京恵中会』の歌の合唱も始まって、大盛会となった。

同会は一九八一（昭和56）年、中学1回―10回生を対象に『東京恵中会』として発足し、二十二年の歴史がある。佐々木会長は「今後は時代の流れに対応し、多数が参加できるよう『東京城陵会』と会名を改め、更なる活性化を図る方針」だという。

『東京恵中・恵高会』は『東京城陵会』と改称し、気分一新、新しいスタートを切った（東京銀座ライオンで）

『写真史 城陵八十年』追加注文を受け付けます

創立八十年記念誌『写真史・城陵八十年』の発行は大変遅れまして深くおわび申し上げます。ようやく年内には全原稿がほぼまとまり、来年二月中には発送できる見通しとなりました。

恵那高等学校創立８０周年記念誌
写真史
城陵八十年
恵那高は永遠に不滅だ
岐阜県立恵那高等学校同窓会

同記念誌の規格はA4版、一九〇ページ、母校の八十年の歴史を写真と文で紹介するユニークな写真史です。うち創立八十年記念式典や最近の十年間、約四〇ページはカラーで紹介しております。

表紙は故・中川とも先生の代表作の一つ『沙弥（しゃみ）―恵那高生10人の群像』を岐阜県美術館などのご厚意により使用できました。

この記念誌は、予約申し込みした方、記念事業募金2口（一万円）以上寄付していただいた方（贈呈）に送付しますが、追加注文も受け付けします。

卒業期によっては「同級会の全会員分を一括購入し、配付したい」とおっしゃっているケースもあります。追加申し込みの方は、一冊千五百円（送付の方は別に送料三百四十円加算）、来年一月末日までに同封の払込み票でお申し込みください。

なお、『同窓会員名簿』（一冊五千円）も在庫があります。この機会に、是非、併せてお求めください。

ご存じの方は情報を…
同窓会員戦没者の調査

東京城陵会有志と同窓会広報委員会では「恵那中学校・同窓会員戦没者名簿」補正の情報収集作業を進めておりますが、各地の同窓会員の方々にもご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今回が最終調査と想定されるため、同窓生出身の市町村から一般の戦没者も含めた全戦没者の名簿を借入れ、その中から同窓生を捜し出す『全員照合』を進めたところ、十二月一日現在で、戦没者総数は二百二柱となり『五十周年記念誌』より四十四柱増えました。

この内容は『創立八十年記念誌』に掲載する予定でしたが、調査未了地域（多治見市、土岐市の一部、南木曽町）があり、次のような出身地などの未解明の方もあるため、更に解明作業を続けて、全調査を完了してから同窓会報に掲載することにしました。

そこで、次の方々についてご存じの方は、是非、情報をお寄せください。例えば『卒業アルバム』の住所番地を教えていただき、その情報から現在の電話番号（子孫）を捜し出し、解明したケースが数件あります。

【未解明戦没者】

★出身地（通学時の住所、以下同じ）戦没日・戦没地が不明な方

［卒業回数・戦没者名（敬称略）出身地の順］

17回＝西尾誠

★出身地・戦没日が不明な方

7回＝池田信雄

8回＝吉本正三

★戦没日、戦没地が不明な方

8回＝千葉文彦（中津、資料により千葉文男、または千藤文男）

★戦没日が不明な方

2回＝小栗宇一（下石）

6回＝丹羽俊吉（大井）

同　山内利之（明世）

7回＝森川郁三（土岐津）

8回＝深萱半左衛門（土岐津）

11回＝唐沢春人（多治見）

同　渡辺年成（多治見）

13回＝鬼頭萬博（読書）

15回＝渡辺吉一（土岐津）

17回＝加納俊政（多治見）

18回＝安藤新平（下石）

19回　5卒渡会恭平（岩村）

【情報連絡先】

047―385―2263＝内海安博（東京城陵会）

045―983―9161＝河内淳次郎（同）

0573―26―2551＝古山　精（広報委員会）